

国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

| | |
|---|---|
| 地区名 | 関東甲信越地区（主担当大学：筑波大学） |
| 事業名 | 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会 タイトル「大学図書館における障害学生支援～障害者差別解消法の施行を受けて」 |
| 事業目的・趣旨 | <p>障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（いわゆる「障害者差別解消法」）の施行により、図書館においても、障害を持つ学生が、他の学生と同じように図書館を利用できるようにするための支援が喫緊の課題となっている。</p> <p>自館のサービス改善を考える際のヒントとなるよう、筑波技術大学の飯塚潤一先生にお話を伺うとともに、先進的な取り組みを行っている大学図書館（北海道大学、筑波技術大学）から事例を報告いただいた。関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会と茨城県図書館協会大学図書館部会研修会を兼ねて開催した。</p> |
| 実施内容 | <p>期 日 平成 28 年 12 月 12 日（月）</p> <p>会 場 筑波大学中央図書館 2階集会室（つくば市天王台 1-1-1）</p> <p>13:45 開会挨拶 江川和子（筑波大学学術情報部長）</p> <p>13:50～14:40 講演 1 飯塚潤一（筑波技術大学教授） 「身近なところから始める障害学生支援～視覚障害を中心に」</p> <p>14:40～14:55 事例報告 福井恵（筑波技術大学視覚障害系図書館） 「筑波技術大学附属図書館視覚障害系図書館の取り組み」</p> <p>14:55～15:35 講演 2 小林泰名（北海道大学附属図書館） 「プリント・ディスプレイのある利用者のための資料電子化サービス」</p> <p>15:35～15:55 質疑応答</p> <p>15:55 閉会挨拶 佐藤初美（筑波大学アカデミックサポート課長）</p> <p>16:00～16:30 図書館内見学（希望者）</p> <p>16:30～17:15 意見交換会（希望者）</p> |
| 事業の成果 （アンケート調査 結果、事業への意 見・感想等） | <p>関東甲信越地区国立大学附属図書館のほか、他地区国立大学図書館、県内公私立大学図書館・公共図書館と幅広い図書館から 48 名の参加があった。</p> <p>アンケート調査では、基礎的な考え方から事例までの話を聞くことができ参考になった、障害者差別解消法の施行を受けて具体的にどう動くべきかを考えるためのヒントが得られた、現場の実際の話が聞けてとても為になった等の感想が寄せられ、全体として満足度の高い研修会となった。一方、講師一人ずつの内容にもっと時間をとってほしかった、時間が短かった等の意見もあった。</p> <p>資料電子化サービスを開始しようとしている図書館にも、また、身近なところからサービスを改善していこうという図書館にも、今後の取り組みにつながる研修となったと思われる。</p> |
| 経費 | <p>13,600 円</p> <p>（内訳）講師謝金（2 人×6,800 円）</p> <p>※ 旅費は茨城県図書館協会から支出</p> |